



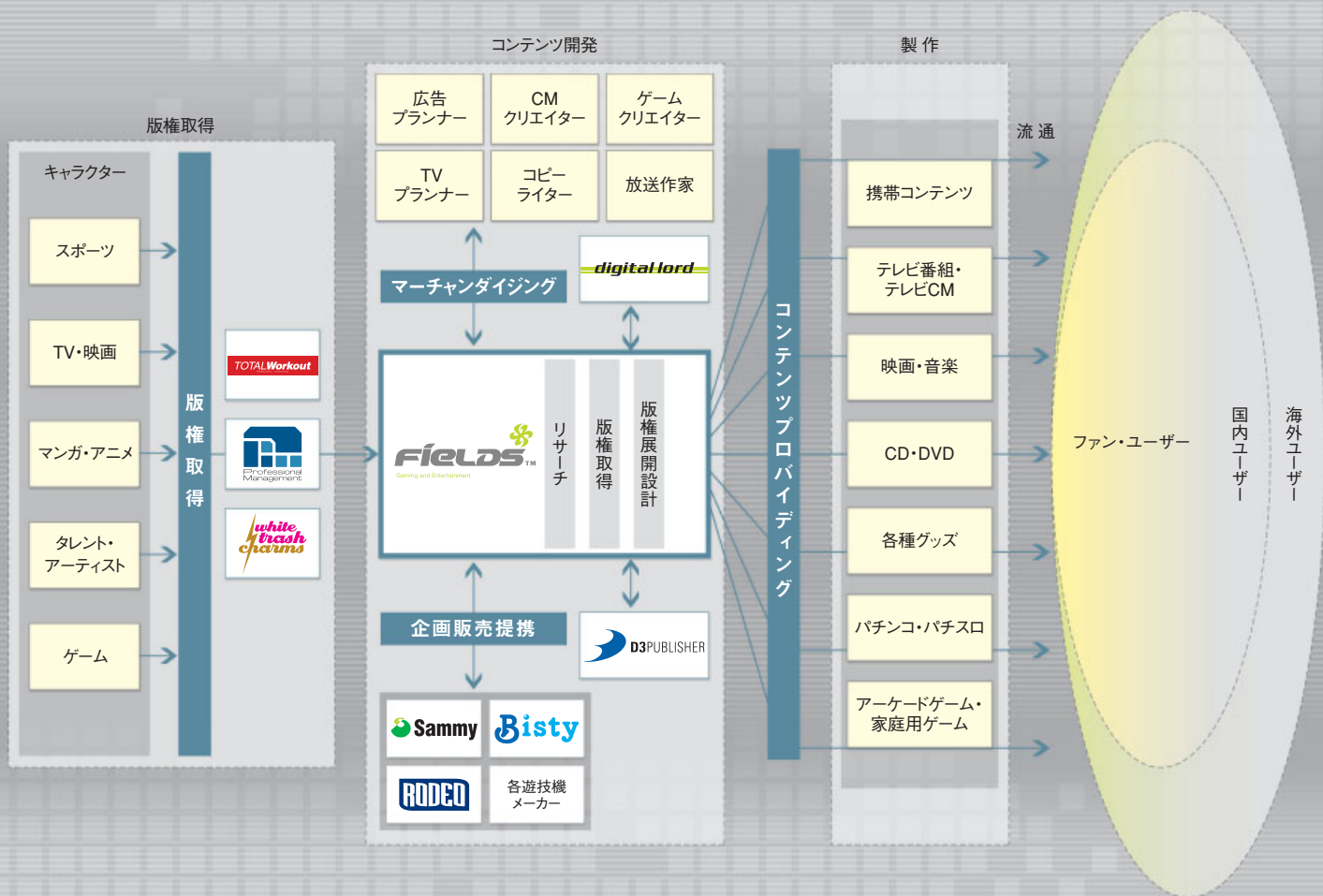
Gaming and Entertainment

2005年3月期中間事業報告書
2004年4月1日～2004年9月30日

フィールズ株式会社

証券コード:2767

「すべての人に最高の余暇を」



フィールズは、全国29拠点450名体制に基礎を置く綿密なマーケティングに基づいて訴求力の高いキャラクターの著作権を取得し、商品企画を付加した良質なソフトを多分野にわたって提供するコンテンツプロバイダー事業を展開していきます。老若男女を問わず地域のあらゆる人々のエンタテインメント・ニーズを、グループ各社の総力を挙げて具体化することで、経営理念に掲げた「すべての人に最高の余暇を」の実現をめざしています。

コンテンツプロバイダー事業の本格展開へ



フィールズ株式会社 代表取締役社長

山本 英俊

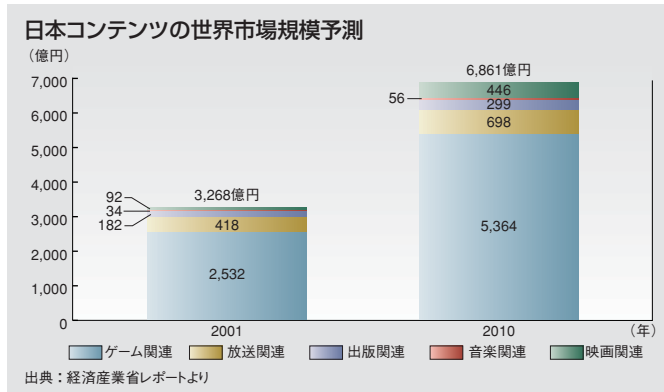
No.1 流通商社としての事業基盤をベースに

当社は、各パチンコホールが特定メーカーの遊技機（パチンコ・パチスロ機）しか設置していなかった時代に、全メーカーの機種を取り扱う遊技機流通商社として創業しました。以来、多彩な機種構成を実現する提案営業によって他に例のない全国販売網を築き、それを基盤とするマーケティング力を培ってきています。

また、ファンの拡大にこそ業界の発展があると考え、幅広い人々に受け入れられるエンタテインメント性の高い遊技機を提供するための取り組みに注力してきました。いち早くキャラクターの可能性に着目し、サミー株式会社（現：セガサミーホールディングス株式会社）の子会社であるパチスロメーカー・株式会社ロデオから、有名キャラクター採用機をプロデュースして爆発的なヒットを記録。これを機に、当社はコンテンツを軸に遊技機市場を一層発展させていけるという確信を深め、有力キャラクターの商品化権取得に努めてきました。

以降、当社は著作権を取得したキャラクターに商品企画を付加して提携メーカーに供給し、最終的に商品化された遊技機を自ら市場に流通させるファブレスメーカーとして独自のビジネスモデルを確立しています。2004年3月期には、サミー株式会社との間で当社専用モデルのパチンコ機の販売を開始し、株式会社SANKYOの子会社・株式会社ビスティとの間では著作権及び商品企画の提供を含むパチンコ機・パチスロ機の独占販売契約を締結しました。さらに数多くのメーカー各社にキャラクター著作権の提供を開始しており、業界全体でエンタテインメント性の高いキャラクター採用機を市場に投入していく仕組みと体制を整えています。

コンテンツプロバイダー事業の本格展開へ



加速するコンテンツプロバイディング戦略

当社の取り組みは、デジタル化という時代の流れのなかで新たな飛躍の段階を迎えています。2004年7月、経済産業省は「新産業創造戦略」においてコンテンツ産業を「知的な新産業分野」のひとつに挙げ、その市場規模も今後さらに拡大すると予測しています。とりわけデジタルコンテンツは大きな成長が期待されており、当社がかねてから培ってきたコンテンツプロバイダーとしての機能をさらに高めていくことで、ゲーム・携帯電話・ブロードバンド・テレビ・映画など広くエンタテインメント分野を横断する事業展開が可能となってきています。

同じく7月、遊技機に関する法律が改正施行され、射幸性を適度に抑えつつ、より高いエンタテインメント性が強く求められるようになりました。キャラクターを活用したエンタテインメント性の高いコンテンツ開発体制を構築してきた当社の優位性を高めるうえで追い風となっています。

こうした事業環境のもと、当社はグループの総力を結集してさまざま

な取り組みを進めてきました。著作権取得については、当社と著名人を結ぶ接点であるトータル・ワークアウト株式会社が、7月に新たなフィットネスジムの大阪・戎橋に出店したほか、米国カリフォルニア州のビバリーヒルズにも新たな展開を予定しています。ホホワイトラッシュ チャームズジャパン株式会社、プロフェッショナル・マネージメント株式会社の両社も、それぞれの事業を通じてスポーツ・芸能など多彩な分野の著名人と広く深いネットワークを築いています。

また、著作権獲得のルートを拡充するために、ハリウッドの大手映画会社3社のライセンスビジネスを手がける株式会社サン・アールアンドビー、複合格闘技イベント「K-1」を企画・主催・制作運営する株式会社FEGの2社と業務提携しました。これらの成果として、上期には25件の著作権を取得しています。今後も著作権取得先の開拓に力を注いでいきます。

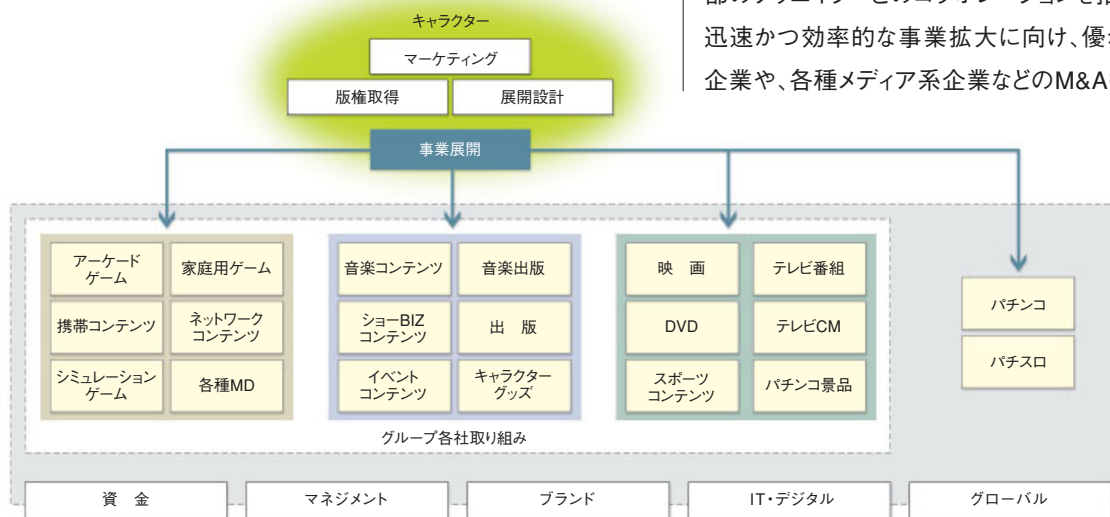
さらに、コンテンツ開発体制を一層強化するため、商品企画の専門部署を社内を設置し、マーケットリサーチからコンテンツの企画、メディア展開戦略の立案などを推進しています。

著作権取得から商品の企画・販売まで

有力メーカーとのコラボレーションによる遊技機の開発も本格化させており、法改正後の新規則に対応した機種をラインアップしています。SANKYOグループ・株式会社ビスティとの取り組みでは「CR新世紀エヴァンゲリオン」をいち早く市場に投入し、2号機もすでに適合を受けて発売準備を進めています。セガサミーホールディングス株式会社との協業も順調に進んでおり、今後も新機種の継続的な市場

投入を予定しています。

一方、ゲーム、グッズなど多様な媒体へのコンテンツ展開については、2004年1月に業務提携した株式会社ディースリー・パブリッシャーが活動を本格化させています。同社はすでに、ウォルト・ディズニー社とドリームワークスアニメ社による「シュレック2」、ディズニー社とピクサー社による「Mr.インクレディブル」の日本国内におけるゲーム独占頒布権を獲得。2004年11月には米国カリフォルニア州のロサンゼルスに現地法人を設立し、世界最大のゲーム市場である北米に橋頭堡を築きました。さらに12月には、当社が包括的な商品化権を有している「K-1」をモチーフとした格闘技ゲーム「K-1 PREMIUM 2004 Dynamite!!」を発売する予定です。



フィールズが取り組むコンテンツ・プロバイディング戦略

著作権取得からキャラクター創造へ

当社は、遊技機流通商社にとどまらずコンテンツプロバイダーへと進化することで、より付加価値の高いビジネスを展開していきます。多数のメーカーに優れたコンテンツを供給していくため、著作権取得に一層の力を注ぐとともに、キャラクターを活用した新たなコンテンツの企画開発にも取り組みます。下期以降、複数のキャラクターを組み合わせる、または有力キャラクターの魅力を際立たせるなどの手法により、新たなコンテンツを創造していく企画を具体化していく考えです。

これらにあたっては、当社の社外取締役である糸井重里氏、また株式会社デジタルロードの社長である川口孝司氏を中核として外部のクリエイターとのコラボレーションを推進していきます。同時に、迅速かつ効率的な事業拡大に向け、優れたコンテンツを保有する企業や、各種メディア系企業などのM&Aも視野に入れています。

当社は今後、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を実現するため、ニーズを先取りした新鮮な驚きと楽しみを提供するコンテンツの創造に取り組み、企業価値をさらに拡大していきます。ぜひ、ご期待ください。

メーカーとの提携関係強化

有力遊技機メーカーとともに、
ゲーム性の高い
キャラクター採用機の発売を加速。

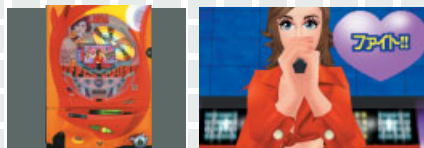
2003年に実施した販売提携・業務提携により、
遊技機メーカーとのパートナーシップを大きく拡充しました。
当期は、各社とのコラボレーションを本格化し、
競争力の高いキャラクター採用機を多数発売しています。





山本リンダの歌と踊りを堪能! 幅広い世代のファンに人気のCR機

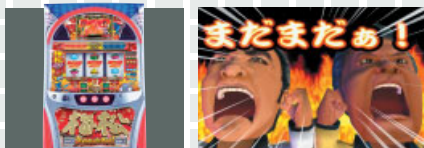
歌手・山本リンダさんを採用し、数々のヒット曲を効果的に活用。“本物感”を追求してリンダの魅力をあますところなく再現し、多くのファンに好評を得ています。



サミー製パチンコ機「CRリンダのどうにもとまらない」
©LMO/GD ©Sammy

映画界の2大スターの競演が熱い 人気機種第2弾

梅宮辰夫さんと松方弘樹さん、銀幕のスター2人が共演する第2弾商品。第1弾のヒットを受けてホールの期待値も高く、法改正直後で新機種が少ないなかで高い需要を生み出しています。



ロデオ製パチスロ機「梅松ダイナマイトウェブ」
©NP/GD/PKL ©PC/BP

下期発売

史上初の全面液晶搭載、 演出画面総数900万通りの エンタテインメント機

「週刊ヤングマガジン（講談社）」に好評連載中の漫画カイジ（原作・福本伸行）シリーズをキャラクターに採用し、勝負師たちの世界を臨場感たっぷり再現しています。

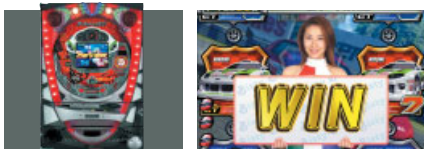


ロデオ製パチスロ機「カイジ」
©福本伸行/講談社



人気のタレントを起用し、 レーシングの興奮を再現

カーレースの迫力と興奮を満喫できるゲーム性の高いパチンコ機。全日本GT選手権で現役ドライバーとして活躍するタレント・ヒロミさんと俳優・保坂尚輝さんが登場します。



ビスティ製パチンコ機「CRサーキットへ行こう」
©株式会社ビー・カンパニー 有限会社サンクチュアリ 株式会社ロッソ

下期発売

本格的なコラボレーションによる 新規第一号機

1995年の誕生以来、TV・ビデオ・映画などで絶大な人気を博したアニメがついにパチンコ機で始動! 人類の命運をかけた戦いを、大型液晶画面のみならず遊技機全体で再現した新型機です。

当社の獲得著作権である「新世紀エヴァンゲリオン」をもとに商品企画し、株式会社ビスティが開発した本格的コラボレーション商品として全国のホールに提案していきます。



ビスティ製パチンコ機「CR新世紀エヴァンゲリオン」
©GAINAX/Project Eva・テレビ東京

ホールへの支援体制拡充

地域に密着した営業展開で、
多くのファンが楽しめる
ホールづくりの提案へ。

より多くの人々にとって魅力的なホール空間創出を提案するため、
営業体制の拡充とショールーム開設を進めています。
業界をとりまくあらゆる情報を高度活用した提案営業により、
ホールと業界の発展、ファンの満足向上をめざしています。



多彩な提案機能をもつショールームの開設を加速

メーカーとの提携強化を受けて遊技機の提案・販売機能をさらに高めるため、営業スタッフを450名に増強し、営業拠点網の拡充とショールームの整備を進めています。上期には、新たに支店を開設した宇都宮・長野のほか、札幌・仙台・静岡・三重・金沢・福岡の各支店のショールーム機能を拡充しました。

営業スタッフの提案活動を支援するショールームには、パチンコ・パチスロ機の機種選定や試し打ち、性能確認といった従来の機能に加え、集客増に向けた多彩な企画・アイデアを提案できる充実したプレゼンテーション機能を備えています。具体的には、ショールームを大きく「パチンコ」「パチスロ」の各フィールドに区分し、それぞれの機種について詳しい情報を提供しています。また、ホール空間全体の提案の場として、全国のホールに関する詳しい定量情報を網羅した「データフィールド」、個性と魅力あるホールづくりをサポートする「ブランディングフィールド」、さらにキャラクター著作権を活用した広告・販促活動を提案する「エンタテインメントフィールド」を設置しました。これらとあわせ、営業スタッフをパチンコ、パチスロ専任に分け、より専門性の高い提案営業に努める体制を構築。従来の常識にとられない斬新な発想で、ホールオーナーの方々をサポートします。



支店および営業社員数推移



当中間連結会計期間の概況

当社が主力事業を展開する遊技機市場では、過剰な射幸性の抑制と不正機の排除を主目的とした国家公安委員会の規則改正が本年7月に施行されました。これによりパチスロ機を中心に射幸性が抑えられる一方、テクノロジーの進化とソフト面でのコンテンツの質的向上が加速し、遊技機のゲーム性は飛躍的に高まりつつあります。

こうした環境下、当社では上期の経常利益を、前年同期の64億円に対して24億円減の40億円と計画しておりました。これは、前期新たに業務提携を開始したSANKYOグループの商品ラインアップ拡大を見越した営業体制の増員やショールーム機能を備えた支店の拡充などに伴う経費増加を見込んだものです。

これらの事業計画に沿った上期の部門別の業績推移は以下の通りです。

①パチンコ関連部門

上期のパチンコ機販売台数は91,157台となりました。前年同期比では214%ですが、計画を下回りました。この主な要因は、1機種の開発が遅れ発売予定が下期にずれ込んだことです。

②パチスロ関連部門

上期のパチスロ機販売台数は77,550台、前年同期比70%となりました。これもパチンコ同様、1機種が発売が下期にずれ込んだことによります。

③著作権獲得(商品化権)

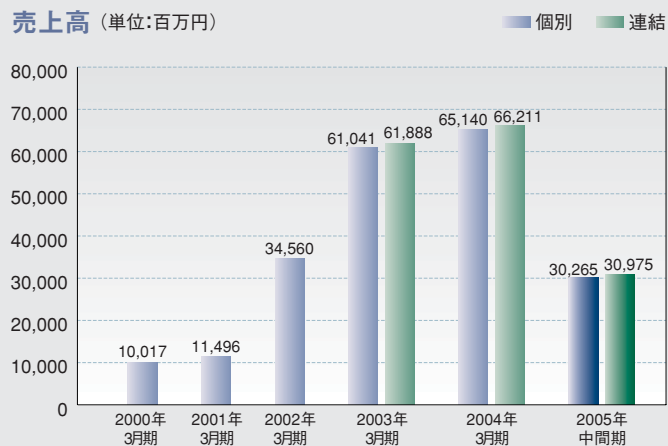
上期には、映画、ゲーム、タレントなど多方面から25件の著作権を取得しています。

これらの結果、上期決算では、売上高30,975百万円(前年同期比15.3%減少)、営業利益は3,171百万円(同48.1%減少)、経常利益3,280百万円(同48.8%減少)、中間連結純利益1,972百万円(同44.0%減少)となりました。

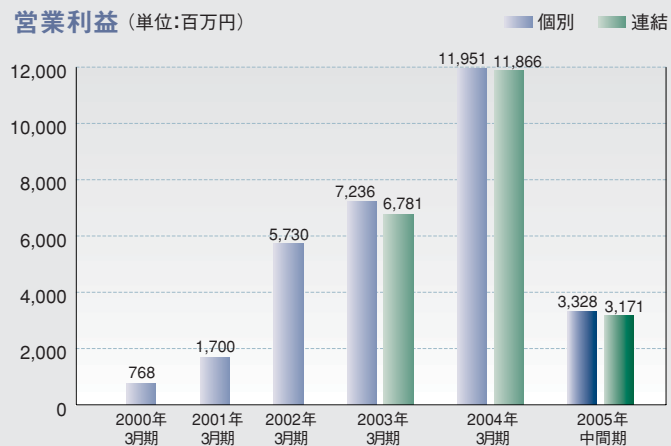
なお、当社では積極的な事業展開に必要な資金を調達するため、当期、海外資本市場で新株を発行しました。この増資によって調達した資金約13,100百万円は、現在、事業活動上の重点施策に有効活用していきます。

財務ハイライト

売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



通期の業績の見通し

当社の競争戦略の根幹を成すコンテンツプロバイダー戦略は、上期、着実に進捗しています。遊技機市場では、新規則に対応したパチンコ機が続々と市場に投入され、幅広い層のパチンコファンから支持を得ると予想されます。同時に、遊技機メーカー間の開発競争と相まってパチンコ産業の活性化が予想されることから、遊技機市場はパチンコ機販売を中心として順調に推移すると見込まれます。

各部門別の通期の事業展開、業績見通しは下記の通りです。

①パチンコ関連部門

上期は3機種を投入しましたが、下期は新規則対応機を含め6機種を投入する予定です。なかでも、株式会社ビスティとの本格的な業務提携の第1弾である「CR新世紀エヴァンゲリオン」が好評を博しており、約10万台の注文を受けて、うち7万台をすでにメーカーに発注しています。

②パチスロ関連部門

上期はロデオ製パチスロ機とビスティ製パチスロ機の販売において、新機種2機種を投入しました。下期は史上初の全面液晶搭載機であるロデオ製パチスロ機「カイジ」をはじめ、有力商品を投入していきます。

③著作権取得部門

上期に著作権取得および商品企画を行う専門部署の体制を強化したことに続き、下期は新たなクリエイティブを行うにさらに人員を増強し、市場ニーズを反映した著作権の獲得、および展開設計を推進します。グループ各社の総力を結集し、コンテンツプロバイダー事業の拡大に向けて必要かつ十分な著作権の確保に努めています。

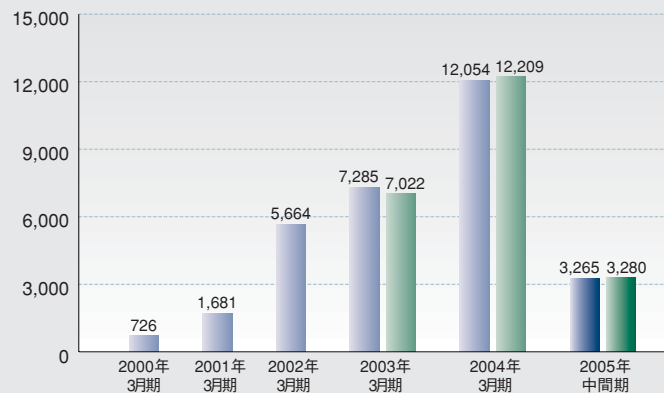
④ゲーム関連部門

下期には、株式会社ディーズリー・パブリッシャーを通じて、話題のディズニー・ピクサー映画「Mr.インクレディブル」の公開に機を合わせて同コンテンツを活かしたゲームを投入します。また、当社が獲得した著作権をもとに開発したゲーム「K-1 PREMIUM 2004 Dynamite!!」を発売する予定です。

こうした積極的な事業展開により、2005年3月期の連結業績予想は、売上高73,700百万円（前連結会計年度比11.3%増）、経常利益14,000百万円（前連結会計年度比14.7%増）、当期純利益7,600百万円（前連結会計年度比14.8%増）を計画しています。

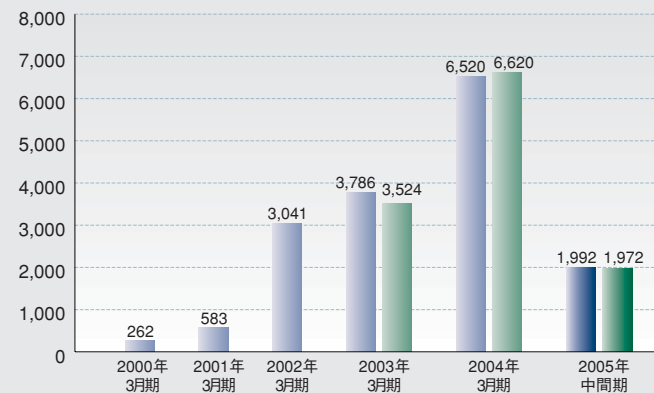
経常利益（単位：百万円）

■ 個別 ■ 連結



当中間純利益（単位：百万円）

■ 個別 ■ 連結



中間連結貸借対照表

(単位:千円)

| 科目 | 前中間連結会計期間末 2003年9月30日現在 | 当中間連結会計期間末 2004年9月30日現在 |
|-----------------|----------------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 15,911,521 | 35,434,514 |
| 現金及び預金 | 6,815,269 | 14,761,976 |
| 受取手形及び売掛金 | 6,768,242 | 14,492,133 |
| 有価証券 | — | 5,000 |
| たな卸資産 | 189,416 | 376,094 |
| 商品化権前渡金(※1) | — | 2,944,054 |
| 繰延税金資産(※2) | 254,239 | — |
| その他 | 1,910,705 | 2,899,075 |
| 貸倒引当金 | △ 26,351 | △ 43,821 |
| 固定資産 | 6,273,802 | 11,521,564 |
| 有形固定資産 | 2,304,858 | 4,678,929 |
| 無形固定資産 | 222,546 | 543,148 |
| 投資その他の資産 | 3,746,397 | 6,299,486 |
| 投資有価証券 | 1,693,827 | 3,982,153 |
| 敷金保証金(※3) | 1,188,092 | — |
| 繰延税金資産(※3) | 294,424 | — |
| その他 | 642,498 | 2,410,288 |
| 貸倒引当金 | △ 72,446 | △ 92,955 |
| 資産合計 | 22,185,323 | 46,956,078 |

※1
前中間連結会計期間末まで流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「商品化権前渡金」については、資産の総額の100分の5を超えることとなったため、区分掲記することに変更いたしました。

※2
前中間連結会計期間末まで流動資産において区分掲記しておりました「繰延税金資産」は資産の総額の100分の5以下となったため、流動資産の「その他」に含めて表示することにいたしました。

※3
前中間連結会計期間末まで投資その他の資産において区分掲記しておりました「敷金保証金」及び「繰延税金資産」は資産の総額の100分の5以下となったため、投資その他の資産の「その他」に含めて表示することにいたしました。

(単位:千円)

| 科目 | 前中間連結会計期間末 2003年9月30日現在 | 当中間連結会計期間末 2004年9月30日現在 |
|------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 8,314,820 | 14,501,708 |
| 買掛金 | 3,669,386 | 11,909,550 |
| 短期借入金 | — | 230,000 |
| 1年内返済予定長期借入金 | — | 81,000 |
| 未払法人税等(※4) | 2,937,348 | — |
| 賞与引当金 | 19,000 | 19,300 |
| その他 | 1,689,085 | 2,261,857 |
| 固定負債 | 1,940,578 | 3,418,271 |
| 長期借入金 | — | 439,000 |
| 退職給付引当金 | 114,823 | 120,569 |
| 役員退職慰労引当金 | 670,900 | 537,700 |
| 預り保証金(※5) | 1,087,034 | — |
| 連結調整勘定(※5) | 2,342 | — |
| その他 | 65,477 | 2,321,001 |
| 負債合計 | 10,255,399 | 17,919,980 |
| 少数株主持分 | | |
| 少数株主持分 | 2,591 | 16,144 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 1,295,500 | 7,948,036 |
| 資本剰余金 | 1,342,429 | 7,994,953 |
| 利益剰余金 | 9,184,115 | 12,872,932 |
| その他有価証券評価差額金 | 105,287 | 204,032 |
| 資本合計 | 11,927,332 | 29,019,954 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 22,185,323 | 46,956,078 |

※4
前中間連結会計期間末まで流動負債において区分掲記しておりました「未払法人税等」は負債、少数株主持分及び資本の合計額の100分の5以下となったため、流動負債の「その他」に含めて表示することにいたしました。

※5
前中間連結会計期間末まで固定負債において区分掲記しておりました「預り保証金」及び「連結調整勘定」は負債、少数株主持分及び資本の合計額の100分の5以下となったため、固定負債の「その他」に含めて表示することにいたしました。

中間連結損益計算書

(単位:千円)

| 科目 | 前中間連結会計期間 2003年4月1日~2003年9月30日 | 当中間連結会計期間 2004年4月1日~2004年9月30日 |
|-----------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高 | 36,567,055 | 30,975,184 |
| 売上原価 | 26,059,047 | 21,989,176 |
| 売上総利益 | 10,508,008 | 8,986,007 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,396,450 | 5,814,359 |
| 営業利益 | 6,111,557 | 3,171,648 |
| 営業外収益 | 311,091 | 345,508 |
| 営業外費用 | 8,853 | 236,480 |
| 経常利益 | 6,413,795 | 3,280,677 |
| 特別利益 | 10,584 | 381,987 |
| 特別損失 | 61,386 | 225,545 |
| 税金等調整前中間純利益 | 6,362,994 | 3,437,118 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2,911,242 | 1,125,441 |
| 法人税等調整額 | △74,219 | 341,273 |
| 少数株主利益又は 少数株主損失(△) | 2,591 | △1,832 |
| 中間純利益 | 3,523,380 | 1,972,236 |

中間連結剰余金計算書

(単位:千円)

| 科目 | 前中間連結会計期間 2003年4月1日~2003年9月30日 | 当中間連結会計期間 2004年4月1日~2004年9月30日 |
|-----------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 資本剰余金の部 | | |
| I 資本剰余金期首残高 | 1,342,429 | 1,342,429 |
| II 資本剰余金増加高 | | |
| 1.増資による新株発行 | — | 6,652,524 |
| III 資本剰余金中間期末残高 | 1,342,429 | 7,994,953 |
| 利益剰余金の部 | | |
| I 利益剰余金期首残高 | 6,060,735 | 11,631,695 |
| II 利益剰余金増加高 | | |
| 中間純利益 | 3,523,380 | 1,972,236 |
| III 利益剰余金減少高 | | |
| 1.配当金 | 323,000 | 646,000 |
| 2.役員賞与 | 77,000 | 85,000 |
| IV 利益剰余金中間期末残高 | 9,184,115 | 12,872,932 |

中間連結キャッシュフロー計算書

(単位:千円)

| 科目 | 前中間連結会計期間 2003年4月1日~2003年9月30日 | 当中間連結会計期間 2004年4月1日~2004年9月30日 |
|-------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 2,618,951 | 2,122,270 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,218,767 | △3,056,289 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △323,976 | 10,256,323 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | — | 1,912 |
| 現金及び現金同等物の 増加・減少(△)額 | 1,076,207 | 9,324,217 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 5,739,061 | 5,437,758 |
| 現金及び現金同等物の中間期末 | 6,815,269 | 14,761,976 |

中間個別貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

| 科目 | 前中間個別会計期末 2003年9月30日現在 | 当中間個別会計期末 2004年9月30日現在 |
|----------------|---------------------------|---------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 15,149,210 | 34,818,855 |
| 固定資産 | 6,983,867 | 11,491,992 |
| 有形固定資産 | 2,053,181 | 4,217,153 |
| 無形固定資産 | 221,928 | 414,579 |
| 投資その他の資産 | 4,708,757 | 6,860,259 |
| 資産合計 | 22,133,078 | 46,310,847 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 8,187,251 | 14,067,400 |
| 固定負債 | 1,938,236 | 3,009,537 |
| 負債合計 | 10,125,488 | 17,076,938 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 1,295,500 | 7,948,036 |
| 資本剰余金 | 1,342,429 | 7,994,953 |
| 利益剰余金 | 9,264,373 | 13,086,887 |
| その他有価証券評価差額金 | 105,287 | 204,032 |
| 資本合計 | 12,007,590 | 29,233,908 |
| 負債・資本合計 | 22,133,078 | 46,310,847 |

中間個別損益計算書(要旨)

(単位:千円)

| 科目 | 前中間個別会計期間 2003年4月1日~2003年9月30日 | 当中間個別会計期間 2004年4月1日~2004年9月30日 |
|----------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高 | 36,042,952 | 30,265,550 |
| 売上原価 | 25,723,660 | 21,538,323 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,226,993 | 5,398,676 |
| 営業利益 | 6,092,299 | 3,328,549 |
| 営業外収益 | 78,298 | 165,578 |
| 営業外費用 | 8,773 | 228,576 |
| 経常利益 | 6,161,824 | 3,265,551 |
| 特別利益 | 19,412 | 395,365 |
| 特別損失 | 59,422 | 225,470 |
| 税引前中間純利益 | 6,121,814 | 3,435,446 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2,903,899 | 1,115,799 |
| 法人税等調整額 | △ 94,832 | 327,559 |
| 中間純利益 | 3,312,747 | 1,992,088 |
| 前期繰越利益 | 942,046 | 1,085,219 |
| 中間未処分利益 | 4,254,793 | 3,077,307 |

株式状況

| | |
|--------------|----------|
| 会社が発行する株式の総数 | 586,000株 |
| 発行済株式総数 | 347,000株 |
| 株主数 | 8,866名 |

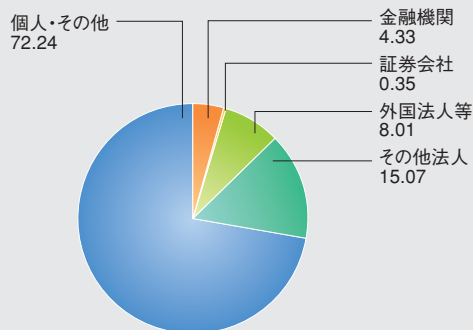
大株主

| 株主名 | 所有株式数(株) | 持株比率(%) |
|-------------------------------------|----------|---------|
| 山本 英俊 | 112,200 | 32.33 |
| 山本 剛史 | 40,000 | 11.53 |
| 山本 洋子 | 35,000 | 10.09 |
| サミー株式会社 | 27,500 | 7.93 |
| 有限会社ミント | 16,000 | 4.61 |
| モルガンスタンレーアンドカンパニー インターナショナルリミテッド | 10,488 | 3.02 |
| フィールズ従業員持株会 | 9,482 | 2.73 |
| 山本 優希 | 5,000 | 1.44 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 4,761 | 1.37 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 3,771 | 1.09 |

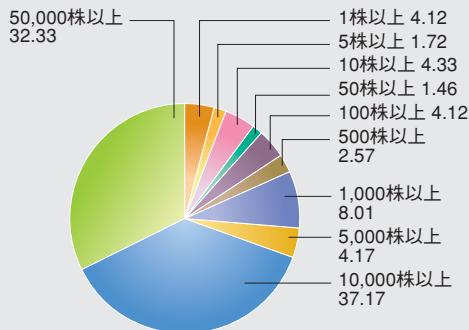
会社概要

| | | |
|--------|--|-------|
| 商号 | フィールズ株式会社(英訳名:FIELDS CORPORATION) | |
| 設立 | 1988年6月(1983年に東洋商事の名で事業を開始) | |
| 本社所在地 | 〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー12階 | |
| 役員 | 代表取締役社長 | 山本 英俊 |
| | 専務取締役 セールスマーケティング本部長 | 猪熊 洋文 |
| | 取締役 マーケティング室長 | 北野 重敏 |
| | 取締役 管理本部長 | 山中 裕之 |
| | 取締役 プロダクト開発本部長 | 島田 繁美 |
| | 取締役 経営企画室長 | 末永 徹 |
| | 取締役 | 糸井 重里 |
| | 常勤監査役 | 松下 滋 |
| | 監査役 | 小池 敕夫 |
| | 監査役 | 古田 善香 |
| 資本金 | 79億4,803万円 ※2004年6月に増資いたしております | |
| 従業員数 | 735名(連結) | |
| 連結対象企業 | プロフェッショナル・マネージメント株式会社 フィールズジュニア株式会社 株式会社デジタルロード ホワイトトラッシュチャームズジャパン株式会社 トータル・ワークアウト株式会社 | |

所有者別分布状況(%)



所有株数別分布状況(%)



株式分割および新株発行について

当社は、株式市場において適正な株価が形成されるためには株式の十分な流動性が必要であり、そのためには多くの投資家の参加が必要であると考えております。当社は、2004年6月15日付で新株式12,000株を発行し、さらに流動性を高める目的で2004年9月3日付で1:2の株式分割を実施いたしました。今後の投資単位の引き下げについては、株主利益重視の視点で慎重に検討してまいります。

株主メモ

| | |
|---------------|---|
| 決 算 期 | 3月31日 |
| 定 時 株 主 総 会 | 毎決算期の翌日から3ヶ月以内 |
| 基 準 日 | 3月31日(そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします) |
| 中 間 配 当 基 準 日 | 9月30日(取締役会の決議により中間配当を実施する場合) |
| 株 券 の 種 類 | 1株券、10株券および100株券の3種類 |
| 株 式 の 名 義 書 換 | 名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社 同事務取扱所 東京都江東区東砂七丁目10番11号 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 同取次所 UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 |
| 公 告 掲 載 新 聞 名 | 日本経済新聞 当社は決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社のホームページ(http://www.fields.biz/)に掲載いたしております。 |
| 上 場 証 券 取 引 所 | JASDAQ |

フィールズ株式会社

〒150-0044

東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー12階

お問い合わせ先 ir@fields.biz